

まちづくり交付金 事後評価シート
文化交流拠点地区

平成20年12月

和歌山県有田川町

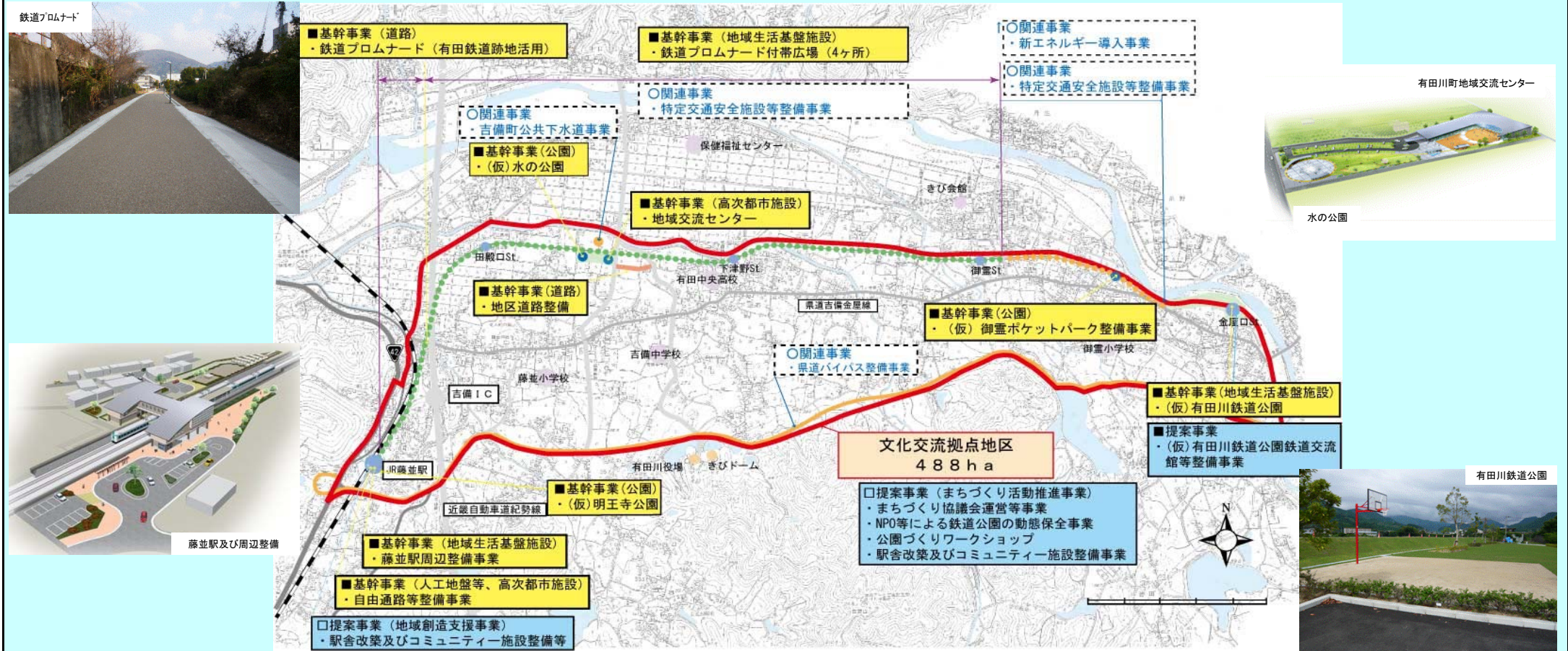
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	和歌山県		市町村名	有田川町		地区名	文化交流拠点地区			面積	488ha			
交付期間	平成16年度～平成20年度		事後評価実施時期	平成20年度		交付対象事業費	3544百万円	国費率	0.4					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	事業名										
			提案事業	道路、公園、地域生活基盤施設、高次都市施設（地域交流センター、人工地盤）										
	当初計画から削除した事業		基幹事業	事業名			削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
			提案事業	公園（仮称 藤並城跡公園） 既存建造物活用事業			関連事業で他の遺跡保存事業が早期に完了したので事業を削除した。 耐震的に存続が難しいことが解り既存建造物活用を断念した。		観光入り込み客数等への影響があった 代替施設ができることから影響はない					
	新たに追加した事業		基幹事業	高次都市施設（人工地盤）			鉄道プロムナードの起点として駅舎改築にあわせて自由通路を整備する必要性が高まったことから事業を追加した。		駅乗降客の増加等が予想されたが、周辺整備が工事中で十分な効果が発揮されていない					
			基幹事業	公園（仮称 明王寺公園）			駅前駐車場として計画したが、駐車場の民間の参入を誘導し、町民の憩いの広場として整備を行うこととした。		民間での駐車場整備が進み、憩いのスペースが増加することからイメージが向上し、目標値への好影響がある。					
			提案事業	地域創造支援事業（駅舎改築及びコミュニティ施設等） 地域創造支援事業（鉄道交流館等整備事業）			同上。 鉄道公園内の既存建造物の活用ができなくなったことから代替施設として計画した。		駅乗降客数の増加等に対してプラスの影響が考えられる。 代替施設ができることから観光入り込み客等への影響は軽微である。					
	交付期間の変更		当初	H16～H20		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
			変更	なし										
	2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
指標1		住民の地域への満足度	—	-0.29	H15	0.21	H20		0.29	○	あり なし	●	事業の進捗により住民の満足度が高まった	H21.7
指標2		地域内交流拠点利用者数	人/年	0	H15	80,000	H20		80,402	○	あり なし	●	新たに交流センターが設置されることで利用者の増加が予想される。	H22.3
指標3		藤並駅乗降客数	人/年	2,560	H16	4,400	H20		2,442	×	あり なし	●	駅周辺整備が工事中で取り付け道路の整備が遅れていることなどから効果が現れていない。	H22.7
指標4		観光入り込み客数	人/年	180,000	H15	220,000	H20		220,000	○	あり なし	●	交通利便性が高いことから日帰り観光客数が増加し概ね目標達成が可能である。	H22.7
指標5		交通事故発生件数	件/年	43	H15	30	H20		30	○	あり なし	●	一部で自転車歩行者専用道が完成し整備効果が現れ始めている。	H22.7
指標6	町民まちづくり会合件数	回/年	5	H16	10	H20		23	○	あり なし	●	事業を通して住民のまちづくりへの参画意識が高まった。	H22.7	
3)その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ 予定時期		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	その他の数値指標1	人口推移	人	14,984	H15			15,289			利便性が高く環境に恵まれている居住地としてのブランド化が進み人口増加に結びついた			
	その他の数値指標2	藤並駅来訪者数	人/日	-	-			40			駅施設が新しくなり散策や散歩の拠点としての利用性が高まった			
その他の数値指標3														
4)定性的な効果発現状況	*施設が美しくなったこと、特急電車が止まるようになったことで利用者の意識が変化したり効果が現れる。また、駅については乗降客だけではなく、夕涼み、列車見学等親子連れの来訪者が多くなった。駅と併設した自由通路については軌道により分断されていた地元自治会にとっては交流しやすくなった。													
5)実施過程の評価			実施内容			実施状況			今後の対応方針等					
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
	住民参加プロセス	鉄道公園や人工地盤の整備などの計画づくりに住民参加で計画づくりを行い、プランづくりに住民の意見を反映した。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● 今後は施設の運営管理面で住民参加を促していくものとする。							
	持続的なまちづくり体制の構築	まちづくり協議会を設立し、持続的に本事業についての検討を行う体制づくりを行った。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● 整備施設の総合的な管理運営面を検討できる組織としてまちづくりの組織体制を維持していく予定である。							

様式2-2 地区の概要

文化交流拠点地区(和歌山県有田川町) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標: 文化交流機能の強化による地域の活性化	1. 住民の地域への満足度向上	単位: -	0.21 H20	0.29 H20
目標1 憩いの公園や交流センターなど、住民のニーズが高い生活交流拠点施設を整備し、地域の生活基盤の強化を図る。	2. 地域内交流拠点利用者数	単位: 人/年	80,000 H20	80,402 H20
目標2 歴史資源や文化遺産を活用した公園や交流空間を整備し、広域的観光による地域への波及効果を生み出す。	3. 駅乗降客数	単位: 人/年	4,400 H20	2,442 H20
目標3 地区内の交流・交通機能を高めるために、安全な歩行者動線を形成し、地区内での歩行者の安全な移動を可能にする。	4. 観光入り込み客数の増加	単位: 人/年	220,000 H20	220,000 H20
目標4 各種交流事業を通じて住民のまちづくりへの機運を高め、住民参加のまちづくり活動の活性化を図る。	5. 交通事故発生件数	単位: 件/年	30 H20	30 H20
	6. 町民まちづくり会合併数	単位: 回/年	10 H20	23 H20



まちの課題の変化	本事業により、当初課題であった大半の項目は解消されたが、駅乗降客の増加は、本事業だけでは事業の目標達成が難しいことから、本事業区域を拠点としてその他の町内や隣接地域との連携を深め、町全体として目標指標の達成に向けて事業推進を行っていく必要がある。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	本事業で整備された各種施設やまちづくり活動の維持管理を適切に行い、数値目標との維持増進を図っていく。また、未達成目標等の実現等のために、関連事業としての県道バイパス整備、公共下水道整備、高速道路の延伸、関連する観光交流施設・資源との連携事業を推進するものとする。